

第5回 負債取引

〔問題1〕

次の一連の取引を仕訳しなさい。なお、入出金はすべて当座預金勘定を用いること。

1. A社は、×1年4月1日に、額面総額10,000,000円の社債を9,600,000円、償還期限5年、利率年4%、利払日9月末日および3月末日の条件で発行した。同日に社債発行手数料100,000円を差し引いた金額が当座預金へ振り込まれた。
2. ×2年3月31日に、決算日をむかえた。利息を支払うとともに、決算整理仕訳をおこなった。なお、償却原価法の適用にあたっては定額法を採用し、社債発行費は一括費用処理する方針である。
3. ×3年3月31日に、額面4,000,000円を3,900,000円（裸相場）で買入償還した。また、利息を当座預金から支払うとともに、決算整理仕訳をおこなった。
4. ×4年9月30日に、利息を支払うとともに、額面3,000,000円を2,970,000円（裸相場）で買入償還した。
5. ×6年3月31日に、利息を支払うとともに、額面3,000,000円を満期償還した。

〔問題2〕

次の一連の取引について、償却原価法の適用にあたり、①定額法を用いた場合、②利息法（実効利率年3%）を用いた場合のそれぞれについて仕訳しなさい。なお、入出金はすべて当座預金勘定を用いること。また、端数が生じる場合には、円未満を四捨五入すること。

1. B社は×1年4月1日に、額面4,000,000円の社債を、3,660,400円、償還期限3年、利率0%の条件で発行した。
2. ×2年3月31日に、決算日をむかえ、決算整理仕訳をおこなった。
3. ×2年12月31日に、社債全額を3,856,000円で買入償還した。なお、償却原価法の利息法の適用にあたっては、年間償却予定額について、期首から償還時までの期間にわたり月割計算をおこなうこと。

〔問題3〕

次の一連の取引を仕訳しなさい。なお、入出金はすべて当座預金勘定を用いること。

1. C社は、×1年4月1日に、額面1,000,000円の社債を940,000円、償還は×3年3月31日を第1回償還日として毎年度末に額面200,000円を抽選償還、利払年3%、利払日3月末日の条件で発行した。
2. ×2年3月31日に、決算日を迎えた。利息を支払うとともに、決算整理仕訳をおこなった。なお、償却原価法の適用にあたっては社債の利用割合に応じた定額法を採用する。
3. ×4年3月31日に、第2回定時抽選償還、第3回（×5年3月31日）償還予定であった額面200,000円の臨時償還（額面金額により償還）、および利息の支払いをおこなった。また、決算整理仕訳をおこなった。
4. ×5年1月31日に、第4回（×6年3月31日）償還予定の額面200,000円について臨時償還（額面金額により償還）をおこなった。なお、前回利払日から臨時償還時までの利息は、月割計算により別途支払った。
5. ×7年3月31日に、利息を支払うとともに、第5回償還をおこなった。

〔問題4〕

次の一連の取引を仕訳しなさい。なお、入出金はすべて当座預金勘定を用いること。

1. D社は、×1年4月1日に、額面総額1,000,000円の社債を955,454円、償還期限5年、利率年3%、利払日3月末日の条件で発行した。
2. ×2年3月31日に、決算日を迎えた。利息を支払うとともに、決算整理仕訳をおこなった。なお、償却原価法の適用にあたっては利息法（実効利子率年4%）を採用する。
3. ×3年3月31日に、額面400,000円を386,000円（裸相場）で買入償還した。また、利息を当座預金から支払うとともに、決算整理仕訳をおこなった。
4. ×4年9月30日に、額面400,000円を401,000円（利付相場）で買入償還した。なお、償却原価法の利息法の適用にあたっては、年間償却予定額のうち、期首から償還時までの期間にわたり月割計算をおこなうこと。また、前回利払日から買入償還時までの利息相当額は、月割計算すること。
5. ×5年3月31日に、決算日をむかえた。利息を支払うとともに、決算整理仕訳をおこなった。

解答用紙

[問題 1]

(単位：円)

	借方		貸方	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

〔問題2〕

①定額法

(単位：円)

	借方		貸方	
1.				
2.				
3.				

②利息法

(単位：円)

	借方		貸方	
1.				
2.				
3.				

[問題3]

(単位：円)

	借方		貸方	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

[問題4]

(単位：円)

	借方		貸方	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

解答・解説

〔問題1〕

(単位：円)

	借方		貸方	
1.	当座預金	9,500,000	社債	9,600,000
	社債発行費	100,000		
2.	社債利息	200,000	当座預金	200,000
	社債利息	80,000	社債	80,000
3.	社債利息	200,000	当座預金	200,000
	社債利息	80,000	社債	80,000
	社債	3,904,000	当座預金	3,900,000
			社債償還益	4,000
4.	社債利息	120,000	当座預金	120,000
	社債利息	12,000	社債	12,000
	社債	2,964,000	当座預金	2,970,000
	社債償還損	6,000		
5.	社債利息	60,000	当座預金	60,000
	社債利息	24,000	社債	24,000
	社債	3,000,000	当座預金	3,000,000

- 利払： $10,000,000 \times 4\% \div 2 = 200,000$
償却原価法（定額法）： $(10,000,000 - 9,600,000) \times 12 \text{ カ月} / 60 \text{ カ月} = 80,000$
- 償還の仕訳を起こす前に、償却原価法の仕訳をおこなうこと。
償却原価法（2回）により、社債の帳簿価額は $9,600,000 + 80,000 \times 2 = 9,760,000$ となっている。このうち、償還されるのは、 $9,760,000 \times \text{額面 } 4,000,000 / 10,000,000 = 3,904,000$ となる。したがって、償還時の貸借差額より償還益が 4,000 となる。
- すでに額面 4,000,000 を償還しているため、利払額は $6,000,000 \times 4\% \div 2 = 120,000$ となる。
 $\times 4$ 年 3 月 31 日における社債の帳簿価額は、 $\times 3$ 年 3 月 31 日時点： $(9,760,000 - 3,904,000) + \times 4$ 年 3 月 31 日の償却原価： $80,000 \times \text{額面 } 6/10 = 5,904,000$ である。このうち、償還されるのは、 $5,904,000 \times \text{額面 } 3/6 = 2,952,000$ であるが、実際に償還されるのは $\times 4$ 年 9 月 30 日までの償却原価を含んだ金額となる。この部分は、 $80,000 \times \text{額面 } 3/10 \times 6 \text{ カ月} / 12 \text{ カ月} = 12,000$ となる。よって、償還時の帳簿価額は $2,952,000 + 12,000 = 2,964,000$ となり、償還損が 6,000 生じる。
- 利払額は償還されずに残っている $3,000,000 \times 4\% \div 2 = 60,000$ となる。
残っている部分の償却原価は、 $80,000 \times \text{額面 } 3/10 = 24,000$ である。
最後の満期償還であるため、償却原価法処理簿の帳簿価額と額面金額が一致し、償還損益が生じない。

〔問題2〕

①定額法

(単位：円)

	借方		貸方	
1.	当座預金	3,660,400	社債	3,660,400
2.	社債利息	113,200	社債	113,200
3.	社債利息	84,900	社債	84,900
	社債	3,858,500	当座預金	3,856,000
			社債償還益	2,500

②利息法

(単位：円)

	借方		貸方	
1.	当座預金	3,660,400	社債	3,660,400
2.	社債利息	109,812	社債	109,812
3.	社債利息	84,830	社債	84,830
	社債	3,855,042	当座預金	3,856,000
	社債償還損	958		

①定額法は、問題1と同じく解けばよい。

②利息法

1. 発行時は定額法と同じである。

2. 償却原価法では、

社債の帳簿価額×実効利子率（償却率）＝社債利息

社債利息－クーポン利子＝償却原価法による償却額

となる。

本問では、クーポン利子がないため、 $3,660,400 \times 3\% = 109,812$ が社債利息であると同時に、償却額となる。

3. 問題文の指示より、先に年間の償却額を計算する： $(3,660,400 + 109,812) \times 3\% \div 113,106$ 。このうち、償還時までの期間は9カ月であるため、償却原価法による償却額は、 $113,106 \times 9 \text{ カ月} / 12 \text{ カ月} \div 84,830$ となる。これを、当期首の帳簿価額に足した金額が、償還時の帳簿価額となる。

* 定額法では、単利計算（利子から利子を生まない仮定）であるため、各期の社債利息（償却額）が一定となる。これに対して、利息法では、複利計算（前期の帳簿価額だけではなく利子からも当期の利子が生まれる仮定）であるため、発行当初の社債利息（償却額）が少なく、償還に近づくにつれて社債利息が増加する。その結果、本問の買入償還時では利息法よりも定額法の方が累積償却額が多く、償還損益が逆の結果となっている。

[問題3]

(単位：円)

	借方		貸方	
1.	当座預金	940,000	社債	940,000
2.	社債利息	30,000	当座預金	30,000
	社債利息	15,000	社債	15,000
3.	社債利息	24,000	当座預金	24,000
	社債利息	12,000	社債	12,000
	社債	200,000	当座預金	200,000
	社債	197,000	当座預金	200,000
	社債償還損	3,000		
4.	社債利息	5,000	当座預金	5,000
	社債利息	2,500	社債	2,500
	社債	196,500	当座預金	200,000
	社債償還損	3,500		
5.	社債利息	6,000	当座預金	6,000
	社債利息	3,000	社債	3,000
	社債	200,000	当座預金	200,000

2. 償却原価法による償却は、 $(1,000,000 - 940,000) \times \text{当期利用割合 } 5/20 = 15,000$
3. 前期末に第1回目の償還を終えており、当期の利用割合は $4/20$ となることに注意すること。よって、償却額は $60,000 \times 4/20 = 12,000$ となる。同様に利息の支払額も額面に応じて少なくなる。
また、臨時償還部分の社債の帳簿価額は、 $200,000 - 60,000 \times \text{残存利用割合 } 1/20 = 197,000$ となる。
4. 償還部分の当期利用割合は、 $(10 \text{ カ月}/12 \text{ カ月})/20 = 1/24$ となる。よって、償還部分の期首から償還時までの償却額は $60,000 \times 1/24 = 2,500$ となる。
また、臨時償還部分の社債の帳簿価額は、 $200,000 - 60,000 \times \text{残存利用割合}(14 \text{ カ月}/12 \text{ カ月})/20 = 196,500$ となる。

[問題4]

(単位：円)

	借方		貸方	
1.	当座預金	955,454	社債	955,454
2.	社債利息	38,218	当座預金	30,000
			社債	8,218
3.	社債利息	38,547	当座預金	30,000
			社債	8,547
	社債	388,888	当座預金	386,000
			社債償還益	2,888
4.	社債利息	7,849	当座預金	6,000
			社債	1,849
	社債	394,292	当座預金	395,000
	社債償還損	708		
5.	社債利息	7,849	当座預金	6,000
			社債	1,849

下記、表を参照のこと。

	a	b	c	d	e	
	前期末 e	$a \times 4\%$	額面 $\times 3\%$	$b - c$	$a + d$	
	期首	社債利息	利払	償却額	期末	
×1 年度	955,454	38,218	30,000	8,218	963,672	
×2 年度	963,672	38,547	30,000	8,547	972,219	388,888(4/10)償還
×3 年度	583,331	23,333	18,000	5,333	588,664	
×4 年度 償還分	392,443	7,849	6,000	1,849	394,292	半期分 394,292 償還
×4 年度 残存分	196,221	7,849	6,000	1,849	198,070	
×5 年度	198,070	7,930	6,000	1,930	200,000	逆算